

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【公開番号】特開2006-14640(P2006-14640A)

【公開日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2004-194653(P2004-194653)

【国際特許分類】

A 01K 89/027 (2006.01)

A 01K 89/01 (2006.01)

F 16D 49/00 (2006.01)

【F I】

A 01K 89/027 501

A 01K 89/01 Z

F 16D 49/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月11日(2007.5.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

ロータ駆動機構105は、図12に示すように、ハンドル101が回転不能に固定されたハンドル軸110とともに回転するマスターギア111と、このマスターギア111に噛み合うピニオンギア112とを有している。ハンドル軸110は、リール本体2に回転自在に支持されている。図13に示すように、ピニオンギア112は筒状に形成されており、その前部112aはロータ103の貫通孔103eを貫通してスプール104側に延びている。この前部112aで、ロータ103はナット113によりピニオンギア112に回転不能に固定されている。ピニオンギア112は、前部と中間部とで軸受114a, 114bによりリール本体102に回転自在に支持されている。ナット113は、リテーナ136により緩み止められている。またナット113は、軸受113aによりスプール軸108に接触している。これにより、ピニオンギア112の内周面とスプール軸108の外周面との間に隙間を形成している。リテーナ136は前壁103dに抜け止めね136aにより係止されている。また、リテーナ136には、シール部材136bが装着されており、ロータ103内部への液体の浸入を防止している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

オシレーティング機構120は、図1に示すように、トラバースカム式のものであり、ピニオンギア112に噛み合う中間ギア20aと、リールボディ2aにスプール軸108と平行な軸回りに回転自在に装着された螺軸120bと、螺軸120bの回転により前後移動するスライダ120cとを有している。スライダ120cにスプール軸108の後端部が回転不能かつ軸方向移動不能に取り付けられている。なお、図13に示すように、螺軸120bの前端部を回転自在に支持するブッシュ120dは、端面から軸方向に突出す

る突出部 120e により回り止めされている。これにより、径方向に突起を設ける場合に比べて周囲に別の部材を装着しやすくなる

[レバーブレーキ機構の構成]

レバーブレーキ機構 6 は、図 12、図 13 及び図 16 に示すように、制動部 116 と、制動部 116 の制動力を調整操作するための制動レバー 117 と、制動レバー 117 を装着部 102c から離反する方向に付勢するコイルばね 119 と、制動レバー 117 により所定制動状態と制動解除状態とに切換可能な所定制動部 121 (図 16) とを有している。